



3 サーバの設置

本製品を安全に正しくご使用になるために必要な設置条件、本体装置の設置から周辺機器との接続までの手順などについて記載しています。

本体装置を設置する

Express5800/ftサーバはEIA規格に適合したラックに取り付けて使用します。



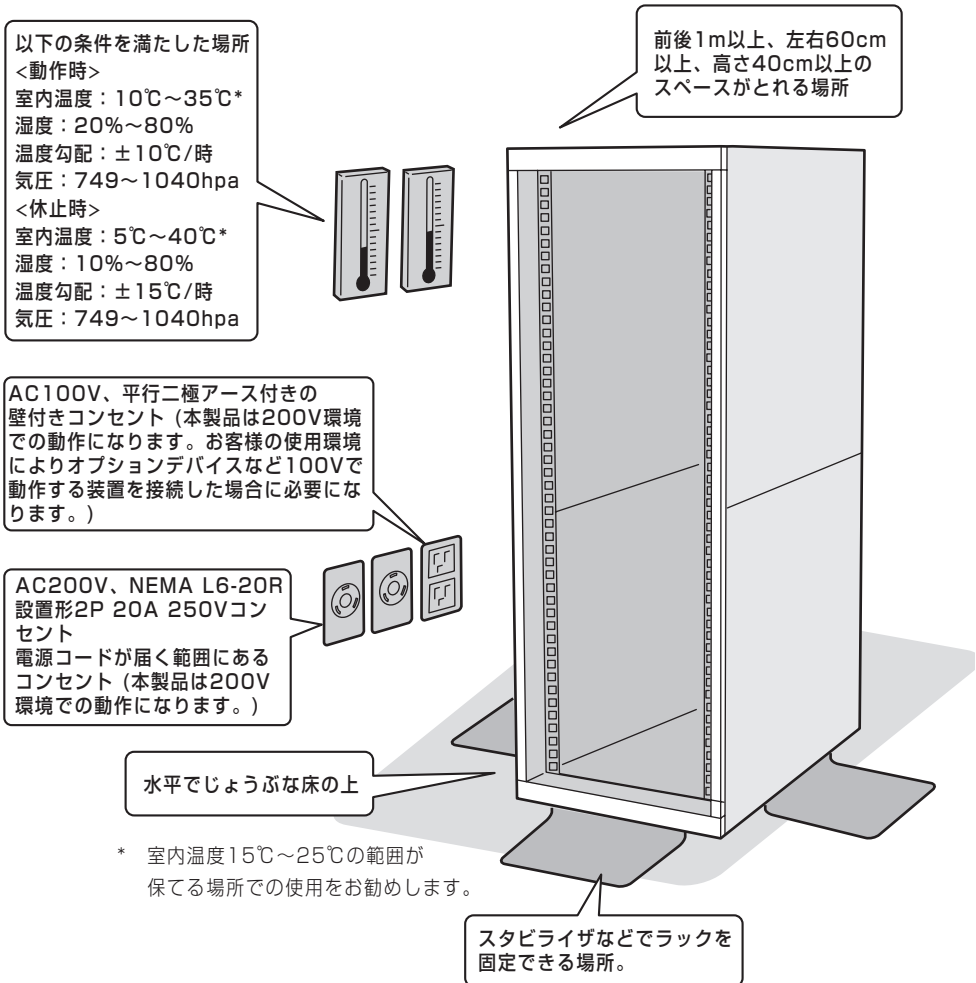
Express5800/ftサーバは精密機器です。設置は専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員に依頼してください。

ラックの設置

ラックの設置作業は専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員に依頼してください。



本製品はコンピュータ室に設置してください。一般事務室へは設置しないでください。



警告



本製品を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、「安全に取り扱うための注意を覚える」(1-2ページ)の説明をご覧ください。

- 指定以外の場所で使用しない
- アース線をガス管につながらない

注意



本製品を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、「安全に取り扱うための注意を覚える」(1-2ページ)の説明をご覧ください。

- 一人で搬送・設置をしない
- 荷重が集中してしまうような設置はしない
- 一人で取り付け・取り外しをしない
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない
- 定格電源を超える配線をしない

次に示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所にラックを設置したり、ラックにExpress5800/ftサーバを搭載したりすると、誤動作の原因となります。

- 本体装置をラックから完全に引き出せないような狭い場所。
- ラックや搭載する本体装置の総重量に耐えられない場所。
- スタビライザが設置できない場所や耐震工事を施さないと設置できない場所。
- 床におうとつや傾斜がある場所。
- 温度変化の激しい場所(暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く)。
- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガス(塩化ナトリウムや二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、オゾンなど)の発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 強い磁界を発生させるもの(テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど)の近く(やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください)。
- 本製品の電源コードを他の接地線(特に大電力を消費する装置など)と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ(商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど)を発生する装置の近く(電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください)。

ラックへの取り付け

Express5800/ftサーバをラックに取り付けます。

ここでは、本製品を搭載可能なラック(N8 140-74/90/91/92/93/94)への取り付け手順について説明します。



本製品のラックへの取り付け/取り外し、ケーブル接続等は専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員が行ってください。ユーザー個人が行い本製品および部品の破損または運用した結果の影響についてはその責任を負いかねますのでご了承ください。

警告



本製品を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、「安全に取り扱うための注意を覚える」(1-2ページ)の説明をご覧ください。

- 規格外のラックで使用しない
- 指定以外の場所で使用しない

注意



本製品を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、「安全に取り扱うための注意を覚える」(1-2ページ)の説明をご覧ください。

- 一人で取り付け・取り外しをしない
- カバーを外したまま取り付けない
- 指を挟まない

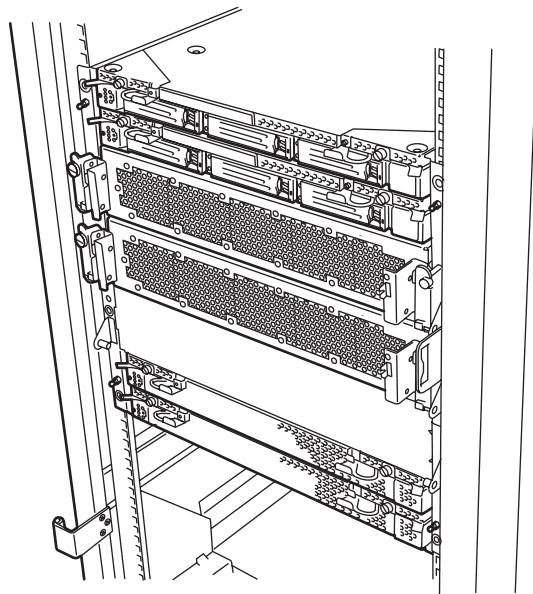


ラック内部の温度上昇とエアフローについて

複数台の装置を搭載したり、ラックの内部の通気が不十分だったりすると、ラック内部の温度が各装置から発する熱によって上昇し、Express5800/ftサーバの動作保証温度(10℃～35℃)を超え、誤動作をしてしまうおそれがあります。運用中にラック内部の温度が保証範囲を超えないようラック内部、および室内のエアフローについて十分な検討と対策をしてください。

<ラック実装例>

本製品をラックに搭載した例を以下に示します。



ラックからの取り外し ~N8140-74/90/91/92/93/94~

フロントベゼルを取り外し後、本体装置両側にあるリリースレバーのネジをゆるめ、レバーを開いてから、ゆっくりと静かに取り出してください。



- 運用中に取り外す場合は、本製品のユーティリティを使って取り外すモジュールをオフラインにしてから取り出してください。
- 本製品のラックへの取り付け/取り外し、ケーブル接続等は専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員が行ってください。ユーザー個人が行い本製品および部品の破損または運用した結果の影響についてはその責任を負いかねますのでご了承ください。







CPUモジュール、PCIモジュール、および拡張PCIモジュールともに途中でラッチされま
す。本体装置側面にあるラッチレバーでロックを解除してから引き出してください。

周辺機器と接続する

Express5800/ftサーバと周辺装置を接続します。

Express5800/ftサーバには、さまざまな周辺装置と接続できるコネクタが用意されています。次の図はExpress5800/ftサーバが標準の状態と接続できる周辺機器とそのコネクタの位置を示します。周辺装置を接続してから添付の電源コードをExpress5800/ftサーバとコンセントにつなげます。

 警告	
	<p>本製品を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、「安全に取り扱うための注意を覚える」(1-2ページ)の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none">● むれた手で電源コードを持たない● アース線をガス管につながらない

 注意	
	<p>本製品を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、「安全に取り扱うための注意を覚える」(1-2ページ)の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 指定以外のコンセントに差し込まない● たこ足配線にしない● 中途半端に差し込まない● 指定以外の電源コードを使わない

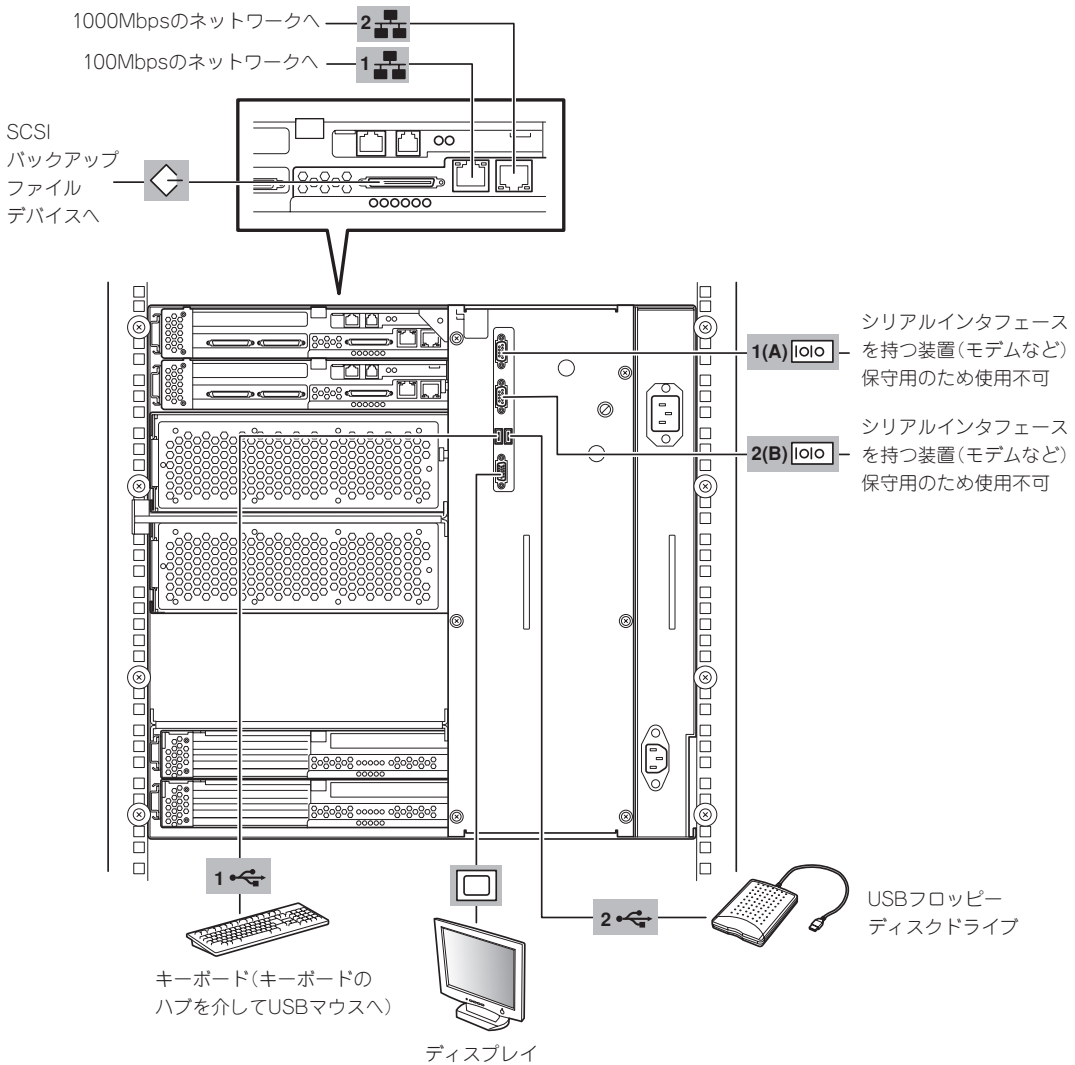
重要

- USB機器を除く製品は、接続する周辺機器の電源をOFFしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。なお、本製品で対応しているUSB機器は弊社指定のUSBフロッピーディスクドライブ、キーボード(マウスを含む)、およびSSU(サイバースイッチユニット)です。他のUSB機器を接続すると誤動作や故障の原因となります。
- 弊社以外(サードパーティ)の周辺機器およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置がExpress5800/ftサーバで使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中にはExpress5800/ftサーバで使用できないものがあります。
- SCSI機器の接続は、SCSI機器内部の接続ケーブルを含め、ケーブルの全長が6m以内になるようにしてください。
- 接続するモデムは、別途、保守サービス会社にお問い合わせください。
- シリアルポートコネクタは保守用のため使用できません。



USBフロッピーディスクドライブについて

ラックに実装する際、本製品に添付のレールを使用して、本体装置下部に取り付けてください。USBフロッピーディスクドライブの取り付け/取り外し/交換は専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員が行ってください。



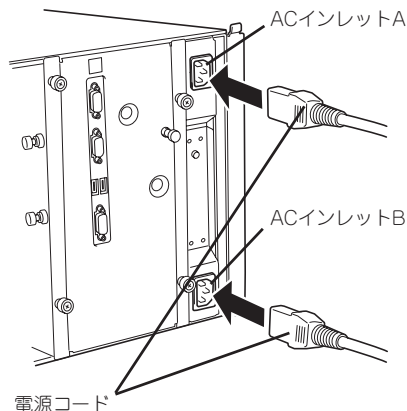
オプション品の接続について

- 標準構成品を購入の場合、別途購入されたオプションPCIカードおよび外付け型バックアップ装置は、オペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付け、接続を行ってください。
- 「ビルド・トゥ・オーダー」でカスタム構成品を購入の場合、N8803-031が実装されている場合は、FCアレイ装置と必ずケーブル接続を行ってから次の手順に進んでください。

周辺機器との接続を完了したら、添付の電源コード(2本)をExpress5800/ftサーバに接続します。

電源コードのもう一方のプラグは、NEMA L6-20R 接地型2P 20A 250Vコンセント、または無停電電源装置(UPS)に接続します。

Express5800/ftサーバとしての機能を利用するためにもExpress5800/ftサーバの電源はUPSから供給されるよう接続することをお勧めします。



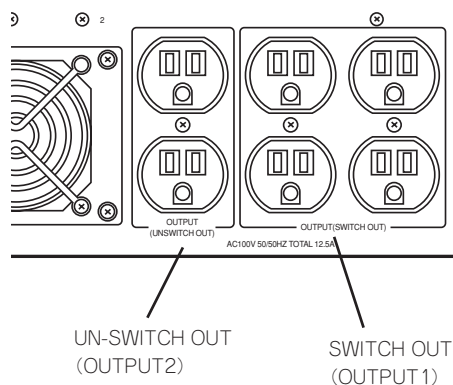
- Express5800/ftサーバとしての機能を利用するために電源コードは必ず2本とも接続してください。
- PCIモジュール両系搭載時、電源コードを先に接続した方がプライマリPCIモジュールとなります。ACインレットAはグループ1用、ACインレットBはグループ2用です。
- プライマリとなっているPCIモジュールの確認はPOWERスイッチのLEDが点灯している方です。

Express5800/ftサーバの電源コードをUPSに接続する場合は、UPSの背面にあるサービスコンセントに接続します。

UPSのサービスコンセントには、「SWITCH OUT」と「UN-SWITCH OUT」という2種類のコンセントがあります(「OUTPUT 1」、「OUTPUT 2」と呼ぶ場合もあります)。

ESMPRO/AutomaticRunningControllerから電源の制御をしたい場合はSWITCH OUTに電源コードを接続します。

<例>



常時給電させたい場合は、UN-SWITCH OUTに電源コードを接続します(24時間稼働させるモデムなどはこのコンセントに接続します)。

本製品の電源コードをUPSに接続している場合は、UPSからの電源供給と連動(リンク)させるためにExpress5800/ftサーバのBIOSの設定を変更してください。

BIOSの「Advanced」-「AC-LINK」を選択すると表示されるパラメータを切り替えることで設定することができます。詳しくは別冊のユーザズガイドを参照してください。



- UPSとの接続、UPSの取り扱いには専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員が行ってください。ユーザー個人が行い本製品および部品の破損または運用した結果の影響についてはその責任を負いかねますのでご了承ください。
- UPSを使用する場合は、機器の始動時に発生する突入電流からUPS自身を保護するため、その間だけ無瞬断でバイパス回路に切り替わり、復帰する『オートリターン機能』を備えたUPSを御使用下さい。ただしバイパス回路に切り替え中(数十秒間)、もし、入力電源に異常があった場合は、機器の正常動作は保証されない場合がありますのでご注意ください。

